

Floppy's Phonics Stage 6 'A Rare Pair of Bears'

p.1

おばあちゃんのところに古い写真がありました。そこには金色の長い髪をした女の子が写っていました。

「おばあちゃん、この子はだれ？」ビフがききました。

p.2

「私のひいおばあちゃんよ」おばあちゃんは言いました。「名前はメアリー」

p.3

ビフは写真をよく見ました。メアリーの隣の小さなイスにくまのぬいぐるみが置いてあります。

「そのぬいぐるみ、まだあるのよ」おばあちゃんが言いました。

「え、どこに？」

p.4

おばあちゃんは2階の客間へ行って、箱をひとつ見つけてきました。箱の中には写真に写っていたあのくまのぬいぐるみがありました。

「これはゴードンよ」

p.5

「ずいぶんボロボロなのね」ビフが言いました。

「背中も擦り切れてるし、おなかもやぶけてる」

「このやぶけたところ、直せる？」

p.6

「それだけじゃないの」おばあちゃんはそう言って、くまのぬいぐるみをもうひとつ箱から取り出しました。「こっちはアーネストよ」

p.7

「かなり珍しいものだな」お父さんが言いました。

「お金にしたら相当するだろうな」

「わあ、ペアのくまだ！」

pp.8-9

街でおもちゃの博覧会が開かれました。お父さんとおばあちゃんは子どもたちを連れて行きました。

“ようこそ、おもちゃ博覧会へ”

「おもちゃがこんなにたくさんある」

おばあちゃんは2匹のくまのぬいぐるみをかばんの中に入れて持っていました。

「どのくらいの値打ちがあるのか聞いてみましょうよ」

p.10

おばあちゃんは、くまのぬいぐるみを鑑定する人のところに持って行きました。

「ほほう。これは実に珍しい」

p.11

「アーネストの方は数千ポンドはしますな。ゴードンはおなかがやぶれているので、やや値が落ちるかと思いますが」

「なに、数千ポンドだって？」

p.12

みんなは博覧会を見て回りました。

「私、この昔の飛行船がいいなあ」ビフが言いました。

p.13

おばあちゃんはイスの上にかばんを置きました。

「昔の人形って、みんなこういうブーツをはいていたの？」とキッパーが聞いています。

「たぶんそうだと思うわ」

p.14

「これ、すごいよ」チップが言いました。「お父さんの向こう側が見えるよ」

「それはペリスコープだ」

p.15

チップがペリスコープをのぞき込みました。すると、女の人がおばあちゃんのかばんを盗むところが見えました。

「あ、何するんだ！」

p.16

おばあちゃんがかばんを手にとろうとすると、「あ、ないわ！」おばあちゃんは息をのみました。

「ぬいぐるみが盗まれたわ」

「そんなのひどいよ」

p.17

おばあちゃんはオロオロしています。

「悪い夢でも見ているようだわ」

p.18

「ぼく、盗んだ人を見たよ」チップが言いました。

「黒い髪に赤いコートを来た女だよ」

「どこ、その女は？」

p.19

「見て！」ビフが言いました。「あそこよ。逃げていくわ」

p.20

おばあちゃんは走り出しました。

「すぐに捕まえてやるわ」おばあちゃんは言いました。

「気をつけてくれよ、おばあちゃん」お父さんが叫びました。

「おばあちゃんはこわいよ！」

p.21

その女は逃げましたが、おばあちゃんの足の速さにはかないませんでした。

「つかまえたわよ」

p.22

お父さんは怒っていました。「頼むから脅かさないでくれよ」

「もう少し、自分の年を考えてくれなきゃ」

「そうね、でもぬいぐるみは取り返したわよ」

p.23

1週間後、おばあちゃんはビフたちの家にやってきました。

「私はやさしい妖精よ」おばあちゃんが言いました。

「それ、どういうこと？」

p.24

「あのぬいぐるみを売ったの」

「それでそのお金をみんなで分けようと思ってね」

「わ〜い！おばあちゃん、ありがとう」